

事業所名	グループホームアルテピア (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成 16年 10月 25日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 指定居宅介護支援事業所介護支援専門員 資格・経験 特別養護老人ホーム介護員歴9年以上・介護福祉士 B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員登録・ホームヘルパー2級・訪問介護員歴3年以上
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か (記述) <ul style="list-style-type: none"> 「もう一つの我が家」というテーマのもと、なにより入居者・家族・職員の信頼関係構築に積極的に取り組み、より安全で快適な家庭的生活の実現を目指している。 スタッフ自身が元気でいつも笑顔の楽しい日々であるために、心身の自己管理につとめ、感性豊かな職員として質の高い温かいケアを目指す。 入居者の意思や選択を尊重し、その人らしい生活をエンjoyいできるように、常に柔軟でゆとりを持った対応をしている。 入居者が孤立することがないように、その感情表現を注意深く受けとめ、適切に対応している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮らして生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か (記述) <ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒に過ごすことが入居者にとって一番の励みになると、開設当初から家族会が結成され、毎日何人かの訪問がある。滞在時間も平均3時間と長い。他の入居者ともなじみの関係が出来上がっていて、作業やゲームなどにも自然に加わるなど共に楽しい時間を過ごしている。 管理者と職員は入居者が孤立しないように心掛けている。趣味の活動や散歩、日常の手伝いなどを一緒にする。職員がやむをえず事務室にいなければならない場合も、窓は開け、視線が合うと手を振るなどして、「いつも気にしていますよ」というメッセージが送られていた。入居者は安心感を持てると感じた。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援		○

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) (1) 家族会の活動が特に活発である。開設以来、家族とホームの交流がより「えん」の発行が年数回のペースで続いている。「えん」には、3つの意味が込められている。すなわち個々の家族と家族会とのご「縁」を大切に、常に「円」を描くように仲間としてよく話し合い、明るく楽しい「宴」(うたげ)のような雰囲気をもたらし出すこと。これらを精神的な支柱とし、もう1つの我が家の実現に励んでいる。3ヶ月に1度の交流会には、ほとんど全員の家族が参加し活発な意見交換をしている。ふれあい交流のひとつを時間も忘れ楽しんでいる。 (2) 開設者は、総合的な医療機関のみならず、老人介護施設にも熱意をもって取り組んでいる。家庭的な環境づくりを理念としたケア方針で、4つの目標(安心・生活・敬意・社会性の実現)を目指している。管理者は、リーダーとして職員のやる気を引き出し、目標に向け努力している。 (3) 同じ知誠会の老健施設が隣接し、夜間や緊急時の支援が受けられる。合同の勉強会は職員の刺激になり資質の向上に役立っている。 (4) 職員の活動で特色があるのは、「係活動」。学習係は介護に関する新聞の切り抜きを貼ったり、他にも美化係・ふれあい係など、十の係を設け、利用者残存能力の活性化につなげていた。 (5) ステンダグラスを使った明るい南欧風の外観は、入居者が外出時に遠くからでも我が家と確認しやすい。また、テラスや居室の窓から見える景色は典型的な田園地帯で気持ちりがなごみ、とても落ち着ける。 特に改善の余地があると思われる点(記述) ・調理の後片付けを済ませて昼食を取る職員もいて、入居者との昼食時間に若干のずれがある。職員と入居者が揃って食事ができれば、共通の話題もでき、ホームの目指している『もう一つの我が家』がもっと楽しくなるのではないかと思います。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> 本人はもとより家族との数度の対話により、本人の経歴・残存能力を正確に把握し、本人ができることや以前やっていたことは、積極的にやってもらうように支援し、それが本人の自信回復に役立っている。 トイレの個所の多さと、適正な位置そして広さはプライバシーを守る基本となっている。 100才、98才の高齢の人や車イスの人も、部屋に閉じこもることなく、リビングでくつろいでいる。居間では、車イスから普通のイスに座り変え、その人の機能維持の運動につなげようという意図が伺えた。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か (記述) <ul style="list-style-type: none"> 今まで特に問題となることはないが、小さなことでも『事故およびひやり・はつと報告書』や『苦情相談』に記入し、原因と反省点を全員で検討し、「どうして、このようなことが起こるのか?どうすれば防げるのか?」を文書に記録していた。これは家族と家族会にも報告している。 スタッフの心得として「入居者の命と安全を第一に考えましょう」「入居者の気持ちを理解でき、共に感動できるスタッフを目指しましょう」ということを掲げ、全員で努力している。 		